



東陽病院 鈴木健士 医師

健康へのメッセージ

シリーズ 36

胃ガンの話

治療法について

手術は一番確実な治療法

光町のみなさんこんにちは、今回は前回に引き続き胃ガンについてお話したいと思います。

もし胃ガンが見つかった場合、どのような治療が最も有効なんでしょうか。これはその胃ガンの状態によっても違うと思いますが、早期胃ガンであれば手術でしょう。その中でも1〜2cm程度の小さなものであれば、胃カメラで切除出来るものもあります。早期胃ガンに限れば、きちんと治療すれば95%以上治すことが出来ると報告されています。手術は誰だってこわいのですし、出来れば避けて通りたいものです。

高齢であればそれはなおさらでしょう。しかし手術や麻酔の技術もどんどん進歩していますし、我々医者も患者さんの状態をよく考慮して、冒険のような手術はしないよう努めています。ただこわいというイメージだけで逃げてしまわずに、手術による危険、手術後に起こるかもしれない合併症と、手術しなかった場合に病気に対しどうい



合はなかなか難題です。ガンに対する治療としては、抗がん剤や放射線治療がありますが、胃ガンにはなかなか効きづらいと言わざるを得ません。正直なところ「効果がある場合がある」といった程度でしょう。やはり手術の治療成績と比べればそこには大きな差があるのは事実です。現在のところ手術は、一番確実な治療法であることは異論のないところだと言えるとされています。

同じ胃ガンでも進行ガンの場合はどうでしょうか。

もしガンが他の臓器に転移をしていない場合には、やはり手術が最も効果的だと思います。しかしその治療成績は、早期胃ガンに比べますとやはり見劣りがします。もしガンが他臓器に転移している場合には、手術は難しい状態であると言えます。治療法の選択にも効果の不確かな抗がん剤などしかないのが実情です。副作用のことを考えて不確かな治療は行わず、痛みなどの症状をとる治療を行う方がよいケースも多いかと思えます。

治療をしてどうい経過になるのかをよく見比べて判断して下さい。

さて、では手術しないとなった場合どういう治療をするかですが、先程お話した胃カメラで切除出来ればいいのですが、大きかったりしてそれも出来ない場

たただガンという病気をやっつけることだけを考えず、患者さんの状態をよく考慮した上で、治療法を決めることが重要かと思えます。どんな病気の治療にも、その方法による治療効果と、それによって生じる危険があります。それは手術だけでなく飲み薬なども同じなのです。その両面をよく理解してよりよい治療法を選ぶようにして下さい。



健康飲料として、さまざまな種類のお茶が販売されています。しかし、なによりの健康茶として改めて見直されているのは、私たち日本人に最もなじみの深い緑茶です。

緑茶の効用

昔から「お茶屋さんには風邪をひかない」といわれています。緑茶には風邪や動脈硬化の予防に役立つビタミンCをはじめ、各種のビタミンが含まれているためです。また、フッ素化合物が豊富なため、虫歯の予防にも役立ちます。お茶で口をゆすいだり、うがいをしたりすることは、マナーの上ではほしくない行為とされそうですが、実は虫歯や口臭の防止には十分に意味のあることなのです。

さらに、緑茶の渋み成分であるカテキンという成分にも、歯を強くし、虫歯の原因となる雑菌を殺す作用があります。実は、近年、緑茶が再評価されてきている理由の多くは、このカテキンにあります。カテキンには、食中毒菌などの殺菌、インフル

風邪から成人病予防まで

エンザなどウイルス感染の防止のほか、高血圧、心臓病などの成人病を予防する働きがあるのです。さらに、細胞の突然変異を抑制する作用があるため、がんの発生防止に効果があると考えられています。お茶の生産で知られる静岡県のがん死亡率は全国に比べて低く、特に県内有数の生産地域では胃がんによる死亡率が全国平均の四分の一程度というデータもあります。

もちろん、これらの効用は、すぐに現れるものではありません。また、大きな効果を期待するあまり、無理にたくさん飲んでも、それを長続きさせることはできません。飲む量や濃さを自分の好みに合わせ、香りと味を楽しむながら、緑茶の飲用を習慣づけることが大切です。

